

研究開発戦略を推進する 研究開発費・製品開発費の配賦の考え方・進め方

～研究開発の業務プロセスを踏まえた原価の把握と市場に対応した原価の企画と管理～

■ 日 時 ■ 2018年 7月 18日 水曜日 13:00 ～ 17:00

■ 会 場 ■ 東京・麹町 企業研究会 セミナールーム

■ 講 師 ■ コーポレート・インテリジェンス株式会社 代表取締役社長 武富 為嗣 氏

《講師プロフィール》

大手エンジニアリング会社、アーサー・D・リトル、AT カーニー、SAPなどを経て、現在の会社設立。経営戦略、研究開発、M&A、サプライチェーンやITのマネジメントのコンサルティングなど、20数年の経験を有する。日本工業大学大学院技術経営研究科教授(プロジェクトマネジメント)を兼任。マサチューセッツ工科大学スローンスクール MBA、東京工業大学工学修士、早稲田大学理工学部卒

■本セミナーの特徴■ 以下の方針・目的で本セミナーを進めます。

中国のネット市場の急成長に見るデジタル破壊やEV化、自動運転、ライドシェアに見る自動車業界の構造変化と企業を取り巻く経営環境が目まぐるしく変わっています。研究開発も、従来のテーマを追求するだけでなく、ネットを取り込んだビジネスモデルの構築や、M&Aやアライアンスによるエコシステムの構築などを想定した新規テーマの発掘と開発の推進が求められます。このような環境の変化に対応しながら研究開発を推進するには、従来の延長で開発テーマを強化するだけでなく、戦略的、効率的に資源配分を行いながら、時代に沿った仕組みを構築し、新時代の市場構造を想定した新製品を市場に投入して、グローバル競争の勝者になることが求められます。スピード感を持って研究開発テーマの取捨選択を行い戦略的に運営するには、まずは、研究開発費を投資として認識し、投資対効果を各々のテーマ毎に評価し、更に市場を見据えた戦略的なくくりで、テーマをグループ化して資源を把握し、戦略的な再配分が出来るように管理者や研究者の見方を変え、運営の方法を変えていく必要があります。更に、膨れ上がるソフト資産(無形資産)の原価への戦略的な配賦と投資回収が必要になってきています。ここでは、このような研究開発費用把握に関する課題を見据えた上で、原価管理の教科書にはない、実践に即した研究開発戦略と連携した製品開発の原価企画と研究開発の原価管理を習得することを目的とします。

■ご参加を頂きたい皆様■

経営企画・経理・原価企画・原価管理・研究開発企画・事業部門の製品開発企画などにご在籍され:

- ・研究開発戦略立案に携わる皆様
- ・研究と開発の連携や開発の効率的な運用を進めたい皆様
- ・途上国市場での競争・勝ち残り戦略を原価企画・管理の視点から考察されたい皆様 など

● 参加要領 ●

●受講料● 1名(税込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

●当会ホームページからお申込み下さい。FAX、または下記担当者宛E-mailからもお申込み頂けます。

企業研究会セミナー

検索

- お申込み後(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- お申込後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願い致します。
- 最少催行人数に満たない場合ほか、諸般の事情により開催を中止させていただく場合もございます。
- 申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の操作方法(O発信の有無など)をご確認の上、FAX番号のお間違えにご注意ください

一般社団法人 企業研究会

担当: 早瀬 E-mail: hayakan@bri.or.jp

102-0083 千代田区 麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

TEL 03-5215-3513 FAX: 03-5215-0951

181601-1001※		18・7・18 研究開発費・製品開発費の配賦の考え方・進め方	
会社名			
住所	〒 -		
TEL		FAX	
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

13:00

1. 企業経営のパラダイムシフトと研究開発が直面する課題

- ・ M&A や提携を取り込んだオープン・イノベーションの加速化
- ・ デジタル破壊やビジネスモデルイノベーションによる市場構造変化への対応

休憩

2. 収益管理の仕組みと戦略的な原価の把握

- ・ プロフィットセンターとコストセンター
- ・ 事業のくくりと戦略に連携した原価の把握

休憩

3. 研究開発の業務プロセスと原価の連携

- ・ 研究開発の業務プロセスの設計と費用配分
- ・ 製品コンセプトの明確化
- ・ 事業性評価と費用の配賦

4. 研究開発戦略と業務プロセスに連携した

研究開発費の配賦の考え方・進め方

- ・ フェーズに区切った研究開発費や製品開発費の配賦
- ・ 技術主導のハイリスク型研究開発の業務プロセス
- ・ 市場差別化・改善型のローリスク型研究開発の業務プロセス
- ・ 売上高研究開発費比率で異なる配賦のくくり
- ・ 研究開発費の配賦の課題と活動基準原価（ABC）による原価の配賦
- ・ 標準原価と実際原価、原価差異

休憩

5. グローバル化や新ビジネスモデルに対応した製品開発組織と

開発戦略に連携した原価企画・原価管理の考え方・進め方

- ・ 市場やビジネスモデルに対応する研究開発のプロジェクト制とマトリクス組織
- ・ グローバル開発費用の配賦、無形資産の償却、移転価格
- ・ ビジネスモデルに対応した原価企画と原価の配賦

6. 戦略と連携した研究開発の事業性評価への適用

- ・ 不確実性の把握と研究開発投資の合理性
- ・ 原価と連動した収益性の把握
- ・ 研究開発の原価管理の業務の進め方の組織レベル

《質疑応答・ディスカッション》

17:00

※講師と同業企業・同職種の方はご参加頂けない場合がございます。予めご了承ください。